

2023 度 【 就労・日中 】 支援部会報告

部会テーマ【 利用者支援を軸にした事業の課題を考えよう 】

構 成 員 【生活介護、就労継続支援 A 型・B 型、自立訓練、就労移行支援】

部会開催	○世話役会議（9/4） ●第1回部会（9/25） 参加者 40 名 ・“利用者が安定して通所するための支援”をテーマに、7 グループに分かれて意見交換。 ・どのようなことに困っているか、どのように支援しているか、課題を共有した。
テーマについて深めた点	○世話役会議（12/1） ●第2回部会（1/10） 参加者 35 名 ・令和 6 年度障害福祉サービス等報酬改定の論点（情報提供） ・“事業課題を考えよう”をテーマに事業ごとに、4 グループ分かれて意見交換。 ・事業所運営していくうえで課題に感じていることを事業ごとに課題整理。 ○利用者の重度化・高齢化 ・重度化・高齢化をはじめとする課題の他、家族や家庭の支援まで担っている事業所も多く、生活問題が複層化している。 ○事業所の人材不足 ・職員不足は深刻で、求人を出しても人が来ないなど支援にかかわる人材確保の問題がある。そのため、職員会議や研修の時間が確保できていない事業所が多くある。 ○支援の質向上 ・自立支援協議会の活動は大事な機会になっており、これまでもたくさんの日中事業所が部会や全体研修会に参加している。 ○事業ごとの課題 ・生活介護は、重度や行動障害の利用者の受け止めや支援の専門性の課題があがっている。 ・就労継続 B 型は、工賃と報酬が連動していることから、利用者支援と事業運営を続けていくことの不安など、があがっている。
部会のまとめ	○人材不足の解消と専門職の育成 ・事業所の職員不足は深刻な問題である。利用者が安心して支援を受けるためには、安定的な職員配置と専門職としての育成が必要である。そのためには、支援のための会議や研修への参加、他事業所とのケース会議の実施などが必要だが、その体制を整えるのは困難な現状がある。特に、自立支援協議会の研修の重要性が高い。 ・人材確保の難しさ：給料の保障が難しく、有資格者や経験豊富な人材、看護師の確保が困難である。 ○安定運営のための日額制の改善 ・日額制の影響で事業所の運営が不安定になっている。事業の継続性を確保し、不安定な障害者も利用できるようにするためには、日額制から月額制への転換を国に求める必要がある。 ○家族のケアからの転換が必要 ・多くの利用者が家族と同居し、家族のケアによって生活を維持しているが、家族の高齢化によりケアが困難になるケースが増加している。日中事業所が家族の状況を把握している場合もあるが、家族が相談できる体制や休息できるショートステイの確保が求められている。 ・児童期から成人期・高齢期までの支援を親に依存している現状から、本人の自立や意思を育てるために早期に支援の転換を図る必要がある。

2023 年度 【入所・GH】支援部会報告

部会テーマ【利用者支援を軸とした支援の課題】

構成員 【入所施設、グループホーム】

部会開催	○世話役会議（8/3、9/7） ●第1回部会（10/17） 参加者 21 名 ・自己紹介 ・アイスブレイクとして食事の提供方法の共有 ・皆さんが考えるグループホームってどんな場所（家）ですか？を議題に意見交換、発表 ・まとめ ○世話役会議（10/17） ●第2回部会（12/13） 参加者 14 名 ・自己紹介 ・グループホームの職員として業務する中で、何を大事にしていますか？グループホームの職員としてどうありたい、どうある必要があると考えますか？という議題で意見交換 ・まとめ ・アンケート（今後の部会で聞きたいこと）
テーマについて深めた点	・支援者の多くは、基本的に利用者の気持ちに寄り添い「自分の家のようにゆっくり寛いで自由に過ごしてほしい」という思いを持ちながら日々の業務にあたっているが、料理やお風呂の提供の仕方など、現場レベルの細かい悩みや困りごとが多かったり、障害の程度により支援の介入が増え入居者に窮屈な思いをさせてしまったりする事へのジレンマを抱えている。 そういった業務の中でも入居者の意思を尊重する事や入居者とコミュニケーションをとる事を大事にしていたり、グループホーム全体の雰囲気良くなるよう支援者同士、自分自身のメンタルケアにも気を付けているという意見もあり、よりよい支援を行うには支援者自身が心身共に健康である事が前提であり、事業所から職員に対するフォローの重要性も感じた。 ・大きな課題としては、マンパワー不足（賃金に対し求められる業務量が見合わない）、支援者・事業所ごとの支援力のムラや支援の方向性のズレ、入居者の高齢化、感染対策や災害対応について人員確保やハード面での限界等、事業所単位では解決できない課題も挙がり、これらの課題の中には長年地域課題として挙げられているが未だに具体的な対策ができていないままの状態が続いているものも多い。 利用者支援を軸とした支援をスムーズに行うには、これらの課題に対し行政レベルで金銭的・物理的な支援対策を講じる事や、職員への研修の開催などが不可欠と思われる。
部会のまとめ	・堅苦しくならないような雰囲気作りに努めた事で参加者がかしこまらず自身の考えを発言できていた。 ・他事業所の話を聞いて新たな気付きを得ている場面や、他事業所がうまく運営している方法を取り入れて向上しようとしている姿勢も見られた。日常業務の中ではグループワークの事業所同士が情報交換する機会がないという声もあり、部会で同系統の他事業所と情報共有する機会を持つことの重要性を再確認した。

2023 年度 【地域生活】支援部会報告

部会テーマ【人材不足の解消と支援への対応】

部会開催	第1回 令和6年11月8日 （参加者：8名） <u>人材不足の解消と、利用者への対応について</u>
テーマについて深めた点	1.各事業所の人材不足の解消と問題点 ・人材募集は、友人・知人からの紹介 ・求人サイトなどを利用 ・ヘルパーの高齢化 2.ヘルパーのSOSにどのように対応しているか ・1か月に1回程度、時間をとって話をするようにしている ・終了報告がメールであった際には、一言添える陽にしている ・メールやLINE、SNSを利用しヘルパーが1人で抱え込まないよう、連絡できる環境作り ・現場のヘルパーから連絡があれば、すぐに管理者やサービス提供責任者が現場にいけるようにしている 3.ケアマネや相談員と連携 ・サービスの施行内容や、緊急時の対応。利用者本人の病状などは新規依頼があったとき確認するようにしている（情報が何も無い時もあるため、現場が困る） ・利用者から、「前の事業所は、やってくれたのに」と理不尽な要求がある 4.暴言や暴行（セクハラ） ・その場で、事業所に連絡。管理者やサービス提供責任者が現場に行くようにしている ⇒サービス終了となる場合もある
部会のまとめ	「参加したいが、サービス提供もあるため参加は難しい」などの意見もあったため、途中参加や途中退席など、出席しやすい体制づくりをしながら、部会を通じて情報交換や、横の繋がりができればと考える。 今回は、ケアマネジャーの参加もあったため色々な意見の交換ができたと感じた。

2023年度 【障害児】支援部会報告

部会テーマ 【 利用者支援を軸とした事業の課題を考えよう！ 】

構 成 員 【 保健所・保健センター・支援学校教員・医療型児童発達支援センター
児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援・居宅介護・短期入所事業所 】

部会開催	○世話役会議（①9/5： 初回顔合わせ ・ ②10/16： 最終打ち合わせ） ●第1回部会（10/26） 参加者 59名 （内、相談支援事業所 20名） テーマ グループワーク「相談員と話そう！」を開催。 相談支援専門員をお招きし、放課後等デイサービスなどの児童部会の構成員とグループワークを実施。双方がお互いに対する質疑応答、意見交換を実施した。
	○世話役会議（③11/6： 1回目の振り返りと2回目の開催内容の検討。 ④1/26： 最終打ち合わせ ⑤2/28： 2回目の振り返りと来年度の開催内容の検討。 ） ●第2回部会（2/16） 参加者 59名 （内、相談支援事業所 13名） テーマ 「児童発達支援センターを知ろう」を開催 児童発達支援センター【しょうとく園】と【いちよう学園】をお招きし、日々の実務・他機関と連携する上での課題についての報告を受け、質疑応答・意見交換を実施した。
テーマについて深めた点	・連携の重要性 利用者を軸とした支援をするには、支援者間の連携が重要である。しかし、放課後等デイサービスなどの事業所は、保護者（主に母）とは連携がとれていても、その他の事業所（学校・複数利用されている他事業所・ヘルパー事業所など）と関わる機会が少ない現状がある。相談支援事業所とも関わる機会が少ないために、課題解決に関わる悩みを、事業所で抱えこみがちであることを課題として認識した。そこで、今年度は地域連携に軸を置き、様々な機関と繋がることのできる環境作りをすることになり、各部会を開催。結果、問題を抱え込まない・地域連携をするためには相談支援事業所との連携が重要であることを再確認した。
部会のまとめ	・連携の重要性 問題や課題を一つの事業所で抱え込まないために、利用者を中心としたネットワーク作りが重要であることの確認ができた。 また、切れ目のない支援をするためにも、今後も、各種支援機関（ほっぴ等）の業務内容、支援の実際、課題等について知る機会を作ること、関係機関との連携を進めていく方向性を確認した。